

## 夜間の住宅地街路に対する住民の防犯意識分析

秋田大学工学資源学部 正 員 ○日野 智  
 (株)八州 正 員 佐藤 里美  
 秋田大学工学資源学部 正 員 木村 一裕  
 秋田大学工学資源学部 正 員 鈴木 雄

## 1. はじめに

都市生活において、犯罪などに遭遇することに不安を感じている住民は少なくない。夜間は不安感が特に増大し、不安を解消することが生活の満足度を向上させると考えられる。秋田県でも住民による自主防犯活動団体数が増加し、防犯対策に有効とされる青色防犯灯を導入した地区もある。しかし、夜間の日常的な防犯対策を実施している地区はさほど多くなく、住民が安心して暮らせる環境を実現するような何らかの対策が望まれる。

本研究は夜間の住宅地街路に着目し、街路の夜間環境に関する改善点や防犯対策に対する住民意識などを把握したものである。すなわち、住民が安心感を得られる生活環境を実現するため、必要となる対策について検討することを目的とした。

## 2. 意識調査による夜間街路に対する意識の把握

本研究は秋田市内の御所野・泉・檜山の3地区を対象に意識調査を実施した。対象地域は現地調査などから選定している。現地調査の結果から、いずれの地区においても街路の明るさが十分ではなく、高い塀や空き地など、通行者が不安を感じるであろう場所も少なくないことが明らかとなった。

意識調査は2008(平成20)年12月に直接配布・郵送回収方式で行い、394票を回収した。調査では自宅周辺の街路で不安を感じる点や防犯対策に対する考えや費用負担意識などを質問している。

## 3. CSポートフォリオ分析による夜間街路の評価

## (1) 夜間の住宅地街路に対する不安感

意識調査の結果、約半数の被験者が夜間に自宅周辺の街路を通行する際に不安を感じており、不安を感じている被験者の約半数が昼夜で経路を変更して

いる。また、女性の方が不安感が高く、子供がいる被験者の約70%が家族の安全に不安を感じている。また、地区別にみると、檜山地区は他地区よりも不安を感じている被験者がやや多くなっている。

## (2) CSポートフォリオ分析の概要

意識調査では夜間に自宅周辺の街路を通行する際の「街灯の少なさ」や「見通しの悪さ」など、個別項目に対する不安感を質問している。本研究は自宅周辺の街路で改善すべき項目の把握を目的とし、CSポートフォリオ分析を行った。

CSポートフォリオ分析は各項目の現状の満足度と、各項目の満足度が総合満足度に与える影響力となる期待度をそれぞれ標準化(偏差値化)し、優先的な改善が期待される項目を把握する手法である<sup>1)</sup>。分析結果は縦軸を現状満足度偏差値、横軸を期待度偏差値としたCSプロット図で示される。

## (3) 夜間の住宅地街路における改善項目の把握

全被験者を対象とし、得られたCSプロット図を図1に示す。「街灯の少なさ」は現状満足度が低く、期待度が高いため、最も優先的に改善すべきものといえる。地区別や性別でみても、「街灯の少なさ」や「人通りの少なさ」の優先度は高い。街灯に対する優先順位は特に高いものであった。また、夜間にお

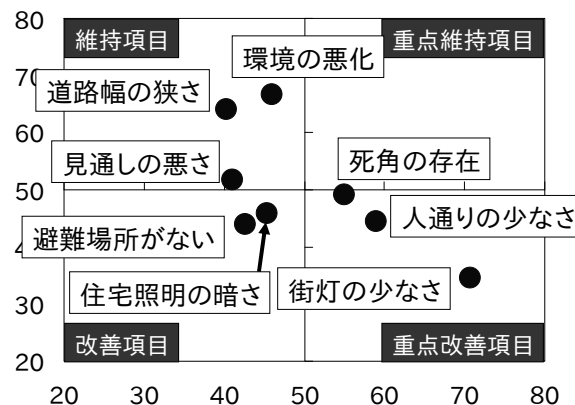


図1 夜間の自宅周辺街路に対するCSプロット図

キーワード：地区計画，意識調査分析，防犯，CSポートフォリオ分析，ロジット型価格感度測定法  
 連絡先：〒010-8511 秋田市手形学園町1-1, TEL (018) 889-2359, FAX (018) 889-2975

ける経路選択理由を質問した結果、最短経路であることなどよりも「街灯の明るさ」を挙げる被験者が多かった。以上から、街路の明るさを改善することで、住民の安心感が向上することが示唆される。

#### 4. 夜間における防犯対策と費用負担意識

##### (1) 夜間の防犯対策に対する意識

意識調査において、現在、実施している夜間の防犯対策と今後、必要と考えられる防犯対策を挙げてもらった。実施している防犯対策では「施錠」「家族の送迎」「環境美化」が多く挙げられた。また、費用と考えられる防犯対策では「防犯灯の設置」「警察によるパトロール」が多く挙げられた(図2)。一方、「住民パトロール」などの地区で行う対策を挙げる被験者は少ないものであった。

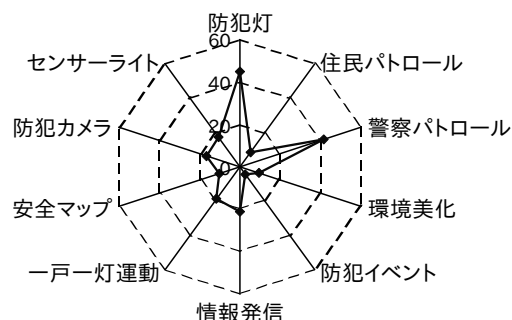


図2 今後、必要と考えられる防犯対策

##### (2) ロジット型価格感度測定法(KLP)の概要

ロジット型価格感度測定法(KLP)ではある商品に対して「安いと感じる」、「高いと感じる」、「高すぎて買わない」、「安すぎて買わない」という4つの価格を消費者に質問する。回答された価格からロジットモデルで回帰した相対累積度数曲線を描き、その交点の価格を評価指標とする(図3)。

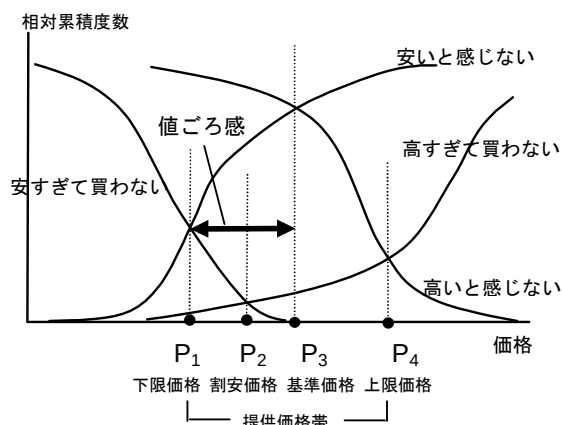


図3 ロジット型価格感度測定法(KLP)の評価指標

- 1)  $P_1$ (下限価格): 消費者全体に受け入れられる下限。
- 2)  $P_4$ (上限価格): 消費者全体に受け入れられる上限。

- 3)  $P_3$ (基準価格): 高いとも安いとも感じない、バランスがとれていて、値ごろ感の基準となる価格。
- 4)  $P_2$ (割安価格): 品質の割に安いと感じる分岐点。
- 5)  $P_1 \sim P_4$ (受容価格帯): 消費者全体に受け入れられるものであり、事業者が提供すべき価格帯。
- 6) 「値ごろ感»: 消費者全体が安いと感じはじめる基準価格より安く、かつ下限価格より上で生じる。

本研究では、町内会費などとは別に1世帯が1年間に支払うものとし、自宅や自宅周辺の街路における防犯対策の費用に対する価格感度を質問している。

##### (3) KLPによる防犯対策への費用負担意識の把握

防犯対策費用に対するKLPの評価指標を表1に示す。現状の町内会費(3,600~6,000円/年)と比較すると、費用負担意識は低くはないと考えられる。地区別にみると、檜山地区は他地区よりも低い価格であり、費用に対する負担感が強いものといえる。

表1 防犯対策費用に対するKLPの評価指標値

|       | 下限価格    | 割安価格    | 基準価格    | 上限価格    |
|-------|---------|---------|---------|---------|
| 全体    | 1,275 円 | 1,485 円 | 2,835 円 | 5,267 円 |
| 御所野地区 | 1,027 円 | 1,233 円 | 2,488 円 | 5,392 円 |
| 泉地区   | 1,315 円 | 1,568 円 | 2,955 円 | 4,647 円 |
| 檜山地区  | 568 円   | 715 円   | 1,702 円 | 3,008 円 |

#### 5. おわりに

本研究における分析の結果、夜間街路における不安感を払拭するためには「街灯の少なさ」や「人通りの少なさ」を改善すべきといえる。具体的には、街灯は新たな防犯灯の設置、人通りは夜間パトロールが考えられる。また、KLPによる分析から、現状の防犯灯設置費用や自主防犯活動に対する補助金に見合うだけの費用負担意識を住民が有していることが明らかとなった。しかし、自主的な防犯活動に対する住民の参加意識は高くないと考えられる。そのため、住民の防犯活動への参加を促すような仕組みづくりが今後の課題といえる。

#### 参考文献

- 1) 武本東・平沢匡介・浅野基樹・高田哲也: 路上作業エリアの安全性向上に関する要因分析, 関知土木研究所月報, No.642, pp.17-29, 2006.
- 2) 岸邦宏・内田賢悦・佐藤馨一: 航空運賃に対する利用者の価格感度に関する研究, 土木計画学研究・論文集, No.16, pp.187-197, 1999.